

# EIWA UNIVERSE

第29号

発行日 2024年3月4日

## 日本平夢テラス周年記念事業 メニュー考案

### ハイライト:

- 食物栄養学科  
日本平夢テラス  
メニューの考案 (1p)
- ふじのくにデジタルサ  
ポーター育成講習会  
の開催 (3p)
- 2024年度学納金  
の納入期日・寄付  
金のお願い (6p)
- 後援会だより (8p)

### 目次:

学長言	2
宗教委員会 ポランティアセンター	3
学科ニュース キャリア支援課	4
研究室探訪 財務課	6
留学生センター 学生課	7
学科ニュース (現コミ) 後援会	8

### 学生考案のメニューが日本平夢テラスにて提供されました。



「日本平夢テラス」は、静岡英和学院大学に接する日本平パークウェイを車で15分ほど登ったところにあります。美しい自然環境に囲まれた施設であり、施設内には日本平の成り立ちがわかる展示物や、雄大な景色を望める展望台があります。また、カフェも併設されており、富士山や駿河湾をはじめとする美しい景色を一望しながら、地元食材を

夢テラス内のカフェにてメニュー考案者の北風鈴佳さん(左)と原崎桃羽さん(右)とともに食物栄養学科1年生

を使用したスイーツやドリンクを楽しむことができます。

その日本平夢テラス内のカフェで、周年記念事業として、静岡英和学院大学短期大学部食物栄養学科の学生たちの考案したメニューが提供されました。

結果は大好評で、提供初日から学生のメニューを目標で来てくださったお客様もおり、メニューのひとつである「さつまいものスコーン」は、カフェ側が想定していた提供数を超え、最終日昼過ぎには完売となったほどです。大成功と言って良いのではないのでしょうか。

しかし、ここに来るまでにはいろいろな取り組みがありました。提供に向けてのプロジェクトは初夏から始まり、学生達によるメニュー考案の後、最終的には2名の学生のメニューが採用され、レシピ作成、試作等、さらに夢テラススタッフによる試作等を計画的に行う必要がありました。また、メニュー・レシピを作成するにあたっては条件があり、地元の食材を使用すること、季節感を考えること、カフェ内で保存・提供しやすいものであること、などいく

つかの条件があり、学生達は試行錯誤しながらレシピを開発することとなり、時には困難を感じていた様子も見受けられました。しかし、この取り組みから得られたものはたくさんあり、実践的経験が得られたことはもちろん、課題解決型の学習による自主性も育まれました。地元の食材や特産品の魅力をより多くの人々に伝える食育の一環にもなりました。また、採用された学生やご家族にとっては誇るべき良い思い出になったと感じます。

来年も日本平夢テラスにて学生考案メニューの提供があるかもしれません。その際には、皆様、ぜひお越しください。静岡の素晴らしい景色を見ながら、学生考案メニューを楽しんでいただけたらうれしいです。

(食物栄養 小川)



北風鈴佳さんが考案。県産の紅あずま(さつまいも)を使用した「さつまいものスコーン」。さつまいも本来の風味や優しい甘味が感じられる。



原崎桃羽さんが考案。日本平産の紅茶を使用した「フォームドミルクアップルティ」。リンゴジャムが入った甘めのアップルティにふわふわのミルクとりんごチップが浮かぶ。

じんせい けいかく  
人生の計画

学長 永山 ルツ子



「あなたがたのために立てた計画は、私がよく知っている一主の仰せ。それはあなたがたに将来と希望を与える平和の計画であって、災いの計画ではない。」

(エレミヤ書一29章11節)

永山 ルツ子

(ながやま るつこ)  
学長

新型コロナウイルスの感染拡大によって私たちの日常生活や社会は急激に変わり、多

くの人が行事の断念ははじめ計画を変更せざるを得なかったのではないのでしょうか。人生の計画では、突然、何かが起こることが多々あります。

28年前、私は京都の学会に向かうため広島から始発の新幹線に乗っていたところ、神戸の隣にある岡山で新幹線が止まりました。阪神・淡路大震災です。神戸付近の空が真っ赤になっていたことを今でも思い出します。

私たちは、自分の命がいつ終わるのかさえも知らされていません。それは明日かもしれないし、数十年後かもしれません。

私は、神から生かされたことが意味あることで、この大学に赴任したことも主の導きであると思っています。

人生における選択というのは、努力で掴む場合もあれば、偶然から導かれることもあります。皆さんがこのキ

リスト教の建学の精神をもつ大学に入学し、学友たちや恩師たちと一緒に学ぶ機会を得られたことは、神の

計画であり、必然だったのかもしれない。神は皆さんにとって最善であると思われたものへと導いてくれま

す。自分の力ではどうしようもなくなったとき、迷って悩んでいるとき、祈りを通じて、人生の計画や歩む道

を、神は愛をもって、導いてくださいます。

本学はじめ、世界中の人々の学びの場やコミュニケーションの場が安全で平和に守られますように。災害に

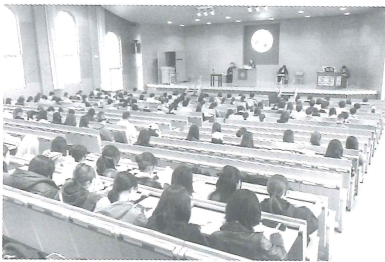
遭われた方々が平安な暮らしに戻れるよう癒と共にお守りください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

## 宗教委員会

### 2023後期を振り返って

いつも本学のためにお祈りくださり感謝します。2023年度も神様に祝福していただき、ここまで無事に過ごすことができました。そのような中、新入生の「スチューデント リトリート」が、山梨県山中湖村において9月19日（火）、20日（水）に行われました。学生にとって日頃経験することのない貴重な時間を過ごせたと感じております。実施後のアンケートでは、「とても楽しかった」、「参加してよかった」という言葉を多くいただきました。2019年より開催されることなかったこの「スチューデント リトリート」ですが、このような参加した学生から喜びの声を聴くと、実施することの大切さを切に思い知らされた次第であります。我校の建学の精神でもあります「愛と奉仕」の実践について、身をもって体験することができるこの「スチューデント リトリート」は、キリスト教教育を基盤とする静岡英和学院大学にとって重要なプログラムであることを実感させられました。

また、チャペル礼拝は後期から、人間社会学部、短期大学の1年生全員で行うようになりました。



前期は、3つのグループに分けて行っていたために、1年生もチャペル礼拝の大切さを理解していないようでしたが、毎週参加することに

よって、その意味と大切さがだんだん分かってきたように思えます。

また、11月には136周年記念創立記念礼拝を行いました。永山ルツ子学長に心のこもった祝辞



をしていただき、菊池みち子先生にオルガンを演奏していただきました。菊池先生には、毎週演奏をしていただいておりますが、このような演奏をしていただいたことにより、学生もその素晴らしさに感動していたようです。

また、12月にはクリスマス礼拝を持つことができました。聖書朗読、讃美歌はもちろんのこと、キャンドルサービスや演劇サークルによる演劇上演などが行われ、1年生にとっては初めてのクリスマス礼拝ということもあり、大変新鮮に感じていたようです。

最後に、わが静岡英和学院大学は、聖書の教えを基盤とした教育を行っているキリスト教プロテスタントの大学であり、イエス・キリストが教えてくださった「心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい」という言葉を胸に、学生への教育に励みたいと思っておりますので、どうかご支援のほどよろしくお願いいたします。  
(宗教主任 佐々木)

## ボランティアセンターだより

### ふじのくにデジタルサポーター育成講習会の開催

ふじのくにデジタルサポーター講習会参加者募集

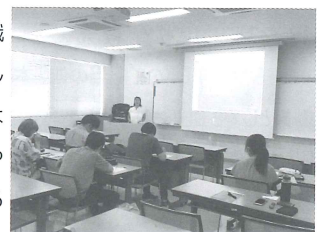
日程：10月11日（水）15:10-17:40（オンライン開催）  
12日（木）10:00-12:00（オンライン開催）  
13日（金）10:00-12:00（オンライン開催）

会場：静岡英和学院大学 新館 A01 教室（予定）  
対象者：志願者全員が対象です。  
申込先：ふじのくにボランティアセンター（事務局）  
お問い合わせ：事務局（054-265-2222）  
申込期間：9月12日（木）15:00～9月20日（木）15:00  
申込先：事務局（054-265-2222）  
申込先：事務局（054-265-2222）

本年度、ボランティアセンターは静岡県が実施している「ふじのくにデジタルサポーター育成事業」に参加しています。本事業は静岡県内の情報格差（デジタルデバイド）解消に向け、デジタル機器に不慣れな方がスマホの使用方法に関して身近で気軽に相談できる人材（デジタルサポーター）を育成し、地域のデジタルリテラシーを向上することを目的としている事業です。

本学でも7月と10月にデジタルサポ-

ーター講習会を開催し、学生及び職員の11名がデジタルサポーターとして認定されました。講習会ではiPhoneとスマートフォンとの違いや基本用語・基本操作の確認をすることも、LINEの使用方法やスマホのセキュリティ対策等を学びました。また知識だけでなく、支援スキルの向上を目指して接遇研修も受講し、聴き方・伝え方を学ぶ機会としました。今後、近隣に居住する方向けのスマホ相談会を企画したり、スマホ利用についての身近な相談役となったりと、本学学生が少しでも情報格差解消の一助になればと考えております。（ボランティアセンター 荒川）



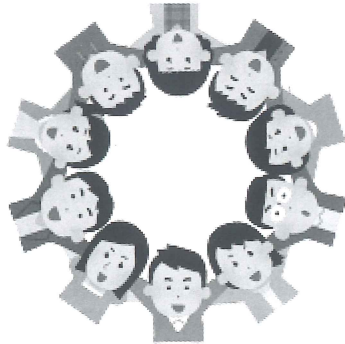
## 人間社会学科

人間社会学科の佐々木謙一です。人間社会学科の5メジャーの報告をいたします。学科の活動は以下のとおりです。

心理メジャーでは、恒例の「心理メジャー卒業研究発表会」を12月12日（4時限）、12月19日（4・5時限）にて開催しました。昨年度は発表動画を事前に視聴させる、今年度は2週に分けて開催するという新しい試みを行い、より良い発表会となるようがんばりました。

観光地域デザインメジャーでは、地域連携活動に力を入れています。郭ゼミでは島田市と観光政策の研究会を開いており、洪ゼミではJAFのイベントで学生が観光アナウンスを担当したほか、毛利ゼミでは東静岡のイベントで特産品開発の成果を披露しました。今後もさらなる地域連携活動の充実をはかっていきます。

英語メジャーでは、今年度は英語教育学の石山久美先生にご就任頂き、英語へ関心を持つ学生たちもさらに大きく触発されています。TOEIC-IPテストを12/9に実施、多くの学生がさらに成長へのきっかけを掴みました。メジャー教員一致し、学生たちの育成へ来年



度も励んでまいります。

日本語文化メジャー三分野のゼミでは、個々の特性を生かした研究活動が持続されています。国語の教職志望者は増え、心理学や観光学のゼミ生もいます。実習先で卒業生の教諭の指導を受けた学生がおり、卒業生の教え子の高校生が受検相談に来ています。かつて本学で学ばれた方々の雷が随

所で開花しています。

経済経営メジャーの金融論ゼミでは、学外から講師を招聘し、研究会を開催しました。キャッシュレス化が進む中での「貨幣とは何か」について、議論を行いました。経営ゼミでは、ゼミ学習を活かし留学生・海外ルーツの学生中心で楓祭模擬店の準備運営を行い、16万円の売上がありました。

人間社会学科は、一人ひとりの学生を大切に、丁寧な指導を行うことによって、教職員一同全力で静岡の地に優秀な学生を送り出すように頑張っています。このような学科ではありますが、また、皆様のご支援があってこそ人間社会学科です。これからもよろしく願っています。

（人間社会 佐々木）

## コミュニティ福祉学科

私達を深く憐れみ、私達を御許で永遠に喜んで生きる者とするために「イエス・キリストの十字架」による救いを打ち立て、そこへ今も招いて下さっている主を賛美し崇めます。また、本学科を導いて下さる主に感謝致します。以下、学科の最近の動きを列挙します；

2023年9月に松野 真 先生（心理学）が玉井先生のご後任として着任され、講義のご担当の他、本学科に所属する入試委員・就職委員としても勤務されています。先生をお送り下さったことを主へ感謝し、主の先生への豊かな祝福とお守りをお祈り致します。

コロナのため2020年4月から3年間未実施だったリトリートが、主の働きにより、2023年9月19日から20日まで大学・短大部合同で清溪（山中湖）にて行われ、本学科からは2年生数名と所属教員3名（山田先生、梓川先生、中原）が御心により同行しています。

2023年11月18日～19日に本学で催された第58回楓祭で、本学科学生を模擬店その他で見かけています。模擬店はコロナ前と遜色ないと感じるほどの盛況でした。本学科にゆかりの「コミュニティ研究会」

（たご焼き）と「はびねす英和」（土曜日のみ。ポテチパン）の模擬店の他、中原ゼミ（4年生と中原）は「卒業研究についての掲示と口頭説明」を新館A205教室で分担して行いました。中原ゼミ生の卒研テーマは、長年、「解決するとすべての人が幸福になる」課題を各ゼミ生が探したものです。本学科卒業生で現同窓会長の安田成希会長へ、A205でゼミ生を紹介させていただき、中原ゼミの卒業研究テーマの考え方についてお伝えしたところ、それに呼応して、保育園長の仕事において「困っている方への思い」を形にしていることをゼミ生へ語って下さり、大変感謝でした。本学学生教職員やご父兄或いは一般の方もご来室下さり、質問等も多数賜り、誠に感謝です。

学生修学サポートセンターが2023年度途中で本学組織として発足し、学生課や保健室と連携した修学支援を開始しましたが、福祉をご専門とする川島貴美江先生（本学科特任教授）がセンター長として統括されています。また、2023年度から本学科に新設されたソーシャルサービス・イノベーションメジャーの大学HPへの記載も始まりました。

主にのみ栄光がありますように。

（コミ福 中原）

## キャリア支援課

### 2024年3月卒業予定者の就職活動の傾向

新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことにより、社会全体として「アフターコロナ」という雰囲気となってきました。企業の新卒採用は、コロナ禍以前にも増して積極的になっており、「売り手市場」と表現しても大袈裟ではなくはなっています。また、就職活動の早期化傾向も進み、大学3年生に対して採用選考を行う企業も目につくようになってきました。

2024年3月卒業予定者の就職活動の傾向として、早期に活動を開始し複数の内定を獲得する学生と、活動を後回しにしてしまう学生との「二極分化」がより顕著になった感触があります。また、入学と同時にコロナ禍による緊急事態宣言が発令されたため、低学年時に同学年との人間関係が築けず、一人で就職活動を進める学生が例年よりも多いように見受けら



れます。これらの傾向のためか、就職活動開始時期である2023年2～4月にかけて、書類添削や面接指導等でキャリア支援課を利用する学生数がここ3～4年の中でも突出して多く、日々対応に追われていました。

このような状況の中で、学生が最も苦労して

いたのは、「学生時代に力を入れたこと」を履歴書やエントリーシートに書いたり、面接の中でアピールしたりすることだったように見受けられます。

思ったようにアルバイトやサークル活動ができなかったため、何をアピールすべきか悩む学生が例年にも



も増して多く、計画性を持ってオンライン授業やレポート提出に取り組んだり、学内で受験できる検定に積極的に取り組んだりといったエピソードが主流を成していたように感じます。仕方ないこととはいえ、「もっと社会と結びついた活動を書きたかった…」という無念が学生から伝わってきました。

これを逆から捉えれば、低学年のうちから社会と結びついた活動にどんどん挑戦した方がいい、ということになります。就職活動に役立つのは勿論ですが、社会に出た後でこそ、その経験が羅針盤となってくるでしょう。学生時代の経験が、思わぬ形で役に立ったり、迷っている時の心の支えになったりと、自分で考えている以上の役割を果たすことがあります。学業、アルバイト、サークル活動、学校行事、ボランティア、社会貢献…、色々なこと是非挑戦してみてください。

(キャリア支援課 小林)

## 食物栄養学科

### 食物サークル“Kaede Kitchen”活動報告

2022年から食物栄養学科の有志により立ち上げたサークル“Kaede Kitchen”は2年目を迎えました。サークル3回生になる現1年生にも多く参加していただき、大変頼もしく思っております。

2023年10月には、商品開発に興味のある学生と共に東京ビッグサイトで開催された「食品開発展2023」に参加し、新しい食品を開発する400以上の企業のブースを巡り、学生たちは様々な新しい食品の現状を直に感じることができました。11月には卒業生と共に楓祭の模擬店に参加し、昨年同様にご多くのお客様に豚汁を味わっていただきました。11月23日には「東ア



ジア文化都市2023 静岡県記念 ヒガンフェスティバル」に参加し、昨年度から継続している「みかん廃棄物の有効利用プロジェクト」の成果である「みかんパウダー」の

商品の試作を完成させ、こ

れの展示および試食会を行いました。前述の食品開発展では、企業ブースを見て回る立場であった学生たちが、今度は自分たちのブースで試作品を説明し、試食してもらい、アンケートで感想や意見を聞く



立場となりました。県内の

ベンチャー企業や本学近隣で事業をされている方がみかんパウダーに興味を持っていただいたこと、試食された方のポジティブな意見が成果だと感じました。何かを形にして、それを発表することで、学生たちにもより前向きに何かを計画し進めていく意義を感じ取ったのではないかと考えております。今後とも、皆様のご理解とご協力を賜り、意義あるサークル活動を続けていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

(食物栄養 庄司、小川)

## 研究室探訪



**内山 尚美**  
 (うちやま なおみ)  
 所属:コミュニティ福祉学科  
 職名:教授  
 専門分野:  
 「音楽教育学」「音楽表現学」

私の専門は音楽教育学と音楽表現学です。大学教員になる前は高等学校の音楽教諭、合唱部顧問をしていました。その後は保育者養成課程や社会教育の場における合唱指導や子どもミュージカルの指導などというように、長年にわたり音楽教育の現場に携わっています。そのきっかけは子どもの頃にとても温かく素敵な音楽の先生に出会ったことで、音楽教員を志すようになりました。そして現在も大好きな音楽を通して学生たちと関わっていただけることをとても幸せに感じています。

ですから研究内容も音楽教育の現場に関わるテーマで主に2つのことを行っ



ています。一つ目は保育者養成課程における3度音程に着目した「読譜力育成」です。理論と演習を組み合わせ、3度音程の単音読譜から複数の音群読譜の方法へと研究を進めています。二つ目はミュージカルやオペレッタなどの「総合表現活動」

の教育的効果です。こちらは表現技術力と共に人間的成長を促し、その経験はコミュニケーション力を必要とする職業選択へ影響を与えていることが明らかになりました。



ですので、私のゼミには音楽を中心とした表現活動に関心のある学生が集まっています。自己の内面を表現し、他者の表現を受容することを通して、表現は更に深化、発展します。そのためゼミのメンバーはみんな心優しい大らかな学生たちです。

音楽表現活動はこのコロナ禍において大きな影響を受けました。特に声を用いた合唱などの音楽活動や保育や教育の現場における表現活動への爪痕は大きく、現在もダメージを引きずっています。一方、新たな表現が生まれたことも確かです。表現は今日明日生きるために必要不可欠では有りませんが、ヒトがヒト、自分が自分であるためにとても重要なものです。そしてゼミの時間には研究室にある約1000枚(多分)のCDの中からゼミ生が選んだものをBGMに流しながら、表現の本質や合唱活動の復活や発展させるための方法について意見を交わし、探求しています。

本学を含めた音楽教育の現場は、これまでこれからも私のライフワークのとても大切な場所です。

## 財務課

### ～令和6(2024)年度 学納金の納付書発送及び納入期限について～

	前 期 ※1	後 期 ※1
納付書発送時期	令和6(2024)年4月上旬	令和6(2024)年9月上旬
納入期限 ※2	令和6(2024)年4月25日(木)	令和6(2024)年10月2日(水)

※1 学納金は、前期と後期の2期に分けて納入いただきます。

但し、新入生(1年生・3年次編入生)の前期分は、入学手続き時に納入済みです。

※2 家庭の事情等により、期限内に学納金の納入が困難な場合は、分割・延納が可能(別途手数料あり)ですので、納入期限までに学生課(Tel:054-264-8873)にご相談ください。

## 寄 付 金 の お 願 い

将来を担う学生のために皆様からの温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。

学校法人HPの「インターネット経由」または、「指定振込用紙」でお申込ください。

## 留学生センターだより

### 楓祭模擬店大盛況

2日間開催が復活した楓祭には、留学生センターから模擬店部門へ昨年同様2ブース、展示部門には2日目に1教室出展しました。学生スタッフ代表の橋山さん、牧田さんを中心に、前期から毎週1回会議を行って計画を練り、楓祭が近づく頻りに集まって、材料の調達や試食会、展示資料の作成などを行い準備を進めました。今年の模擬店は1日目が中国料理の水餃子とゴマ団子、2日目がスリランカ料理のタンドリーチキンを販売しました。水餃子は中国人留学生のアドバイスをもとに本場の調味料を使い手作りました。水餃子は茹でると皮が剥がれて中身が出てしまうというアクシデントに見舞われましたが、ゴマ団子同様、本場さながらの出来で提供でき、完売でした。タンドリーチキンは市内のスリランカ料理の名店「スパイシーコロンボ」さんから直接取り寄せ、直火で温めて原価以下の値段で提供しました。100個以上仕入れましたが、本場の味とあって、あっという間の



完売でした。展示部門では留学生の母国や留学先情報を手作りパネルで紹介しました。また、来場者に民族衣装のコスチュームを着ていただきチェキで撮影して写真を提供する取組も好評でした。学生スタッフが最後まで責任を持ってやり遂げ、有意義な2日間となりました。

### わいわいワールドフェア参加

11月26日(日)、青葉公園で行われた第5回静岡わいわいワールドフェアのステージパフォーマンスに、本学の留学生が参加しました。インドネシア出身のジェリタ オクタピダさん(人社2年)、ウイディア メディアントさん(人社2年)、ルマンテ ダナリさん(人社2年)、サクディア サムリさん(人社1年)の4名は母国の伝統舞踊「タリ ピリン」を披露。お皿を使ったこのプレートダンスは豊作を神々に感謝するための踊りで、終盤には割れたお皿の上で見事な踊りを見せてくれました。カルナラタナ パースカ エサラさん(スリランカ、人社4年)は民族舞踊「ウェス ダンス」を踊りました。決められた町で僅かな人しか踊ることができないこの踊りを、エサラさんは煌びやかな衣装と共に披露してくれました。



(留学生センター 平井)

## 学生課

### 第58回楓祭開催!

本年度の楓祭は実行委員会が主体となり、過去を超える楓祭にしようと昨年度から企画を練ってきました。入念な準備の下、県内最多規模の38団体の出展ブース、3箇所に分かれての軽音サークルを中心としたステージパフォーマンス等、コロナ禍以前を上回る規模での開催となりました。



中でもメイン企画として、11/18(土)にマグロ解体ショー、11/19(日)に声優の小野友樹さんをお呼びしたトークショーを行い、盛況を得ました。18日は木枯らしが吹き荒れる中でしたが、解体ショー会場である食堂は超満員

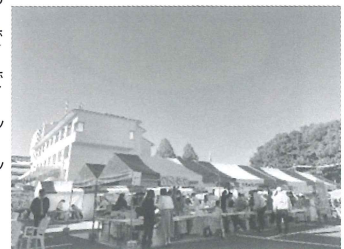


となり、多くのお客さんに日頃見ることができないマグロの解体を間近で見させていただくことができました。ショー終了後はその場で捌いた脂の乗った本マグロを美味しくいただきました。今回のショーで使われた本マグ

ロは食堂業者の(株)レパストさんの仲介のもと、焼津さかなセンターさんにご準備と実演をしていただきました。本当にありがとうございました。

19日は前日とは違い小春日和の一日となりました。実行委員会が直接小野さんの事務所にアポを取り、今回のトークショーが実現しました。開場直前には新館5階ホールから4階まで長蛇の列ができ、小野さんのトークショーへの期待が伺われました。トークショーは学生が進行を行い、立派に重責を果たしました。小野さんの軽快なトークのおかげもあって来場者の方々と共に楽しい時間を過ごすことができました。

運営に関わった実行委員のほとんどが、コロナ禍で高校時代の学校祭や入学後の楓祭準備を経験しておらず、右も左もわからない状態での企画運営となりましたが、皆で力をあわせて、充実した素晴らしい楓祭を開催することができました。(学生課 荒川)



## 現代コミュニケーション学科

### 鈴木梨恩さん、ミスユニバーシティ日本大会、 見事グランプリ！

2023年9月25日ミスユニバーシティ日本大会で、現代コミュニケーション学科1年生の鈴木梨恩さんが見事グランプリを獲得されましたので、インタビュー形式で大会のエピソードを伺いました。

Q. 大会に出ようと思ったきっかけは何でしたか？

A. 中学生の頃から芸能活動に興味があり、高校の時のクラブの顧問の先生から、この大会を勧めていただき、挑戦してみたいと思ったのがきっかけです。

Q. 審査の際に気をつけたことは何でしたか？

A. 大会に出場するに当たって、自分のいいところはどこかを改めて考えたところ、自分は謙虚で感謝を人に伝えられることだと思いました。最終審査で他の出場者と意見が合わないときは、相手の話をよく聞き、相手の意見を尊重しながら、自分の意見も主張しました。またレッスン中に同じ出場者が自分の悪い点を指摘してくれたときも「ありがとう」と素直に感謝の気持ちを伝えました。リーダーシップを取ることができなくても、謙虚さや感

謝の気持ちを忘れないことが大事だと大会を通して、再認識しました。

Q. 優勝して変わったことは何ですか？

A. 2023ミスユニバーシティグランプリ受賞者として、責任をもち、行動するようにしています。また積極的に発言するだけでなく、みんなの意見をまとめるリーダーの役割も果たすようになりました。

これから鈴木梨恩さんの一層の活躍が期待されます。ぜひ皆さんの応援をお願いいたします。  
(現コミ 芦澤)



## 後援会だより

### コンビニ前ラウンジの

#### テーブル・椅子を入れ替えました

コロナ禍以降、授業や就職活動がオンラインにて実施される機会が増え、PC画面と向き合う学生の姿がよく見られるようになりました。中でも、コンビニ前ラウンジは1日を通じて学生が利用していることから、今回はそのテーブルと椅子の入れ替えを行いました。

新しく配置したハイデスク、ハイチェアや台形の机により、目的や人数に合わせて利用することができる空間へと変化し、静音性の

高い個人用ブースでは周囲を気にすることなくオンライン面接等への対応が可能になりました。

ラウンジをはじめとする学内施設において、学生がより快適に過ごせるよう、大学後援会は今後も学生生活に寄り添って活動をすすめていきます。

(総務課 倉田)



静岡英和学院大学  
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY



静岡英和学院大学短期大学部  
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE

〒422-8545

静岡市駿河区池田1769

TEL 054-261-9201 FAX 054-263-4763

最新情報 <http://www.shizuoka-eiwa.ac.jp>

ご意見・ご感想 [info@shizuoka-eiwa.ac.jp](mailto:info@shizuoka-eiwa.ac.jp)